

事前に提出いただいた委員からの御意見等

令和5年10月2日

東京大学名誉教授
一般社団法人青山公会計士監査研究機構主任研究員
山本 清

令和4事務年度国税庁実績評価書について

1. 総括的には実施庁の評価に熱心に取り組まれており、特に国税庁のデジタル化について着実な進展がみられます。また、インボイス導入に関する相談・説明などに努められていることも評価できます。
2. 令和4事務年度の国税庁の評価について
 - (1) 税務行政への信認には適正な執行と同時に職員の行動規範が基本になります。今回の対象事務年度内にも国税局・税務署の職員による不正・不法行為がみられ、特に税に関する不正申告のものもあります。職員研修以外に職場の環境や日常の人事管理上の対策が必要と思います。1-1-4に何らかの記載があってしかるべきと考えます。
 - (2) p 24 : 事務改善の提案件数の減少がみられるがその理由は。
 - (3) p 30 : 個人情報取扱いに係る不適正事案が継続しているがその対策は研修以外にないのか。
 - (4) p 43 : e-Tax の利用満足度が令和3年度 75.2%に比して 61.1%と大きく低下した理由は。調査方法の違いか。
 - (5) P 57-58 : 内部事務センター化による BPR の効果は測定しているのか。人員配置に活かされているか。
 - (6) p 71 : 税の作文の応募編数が高校生で回復していないのはなぜか。
 - (7) p 97 : 申告漏れ所得（課税）価格と追徴税額の関係を示すと理解が深まると考えます。
 - (8) p 109 : 催告回数が AI 利用により減ったとするのが正しいとすると、達成度の評価は○でよいのではないか。